

# 崎 定 長 検

## 一級 さん

Vol.24

### 長崎の商人文化

なか  
しま  
中嶋

こう  
じ  
恒治  
さん

合格率十二％…。長崎歴史文化観光  
検定の最難関を突破した一級ホルダー。  
その卓越した識見には、なにやら一家言  
ありそうです。  
さつくはらんに寄稿願いました。

私は長崎の街中に生まれ、長崎くんちにも踊町として参加するなど、長崎じげもんと自負しております。大学時代に一年間ヨーロッパに留学し、卒業後しばらく東京で勤めていました。外から長崎を見たとき何か他と違う不思議な雰囲気を感じることがありました。長崎の町は貿易を目的として、ポルトガル人が創った町だったのです。安土桃山時代に長崎から旅立った四人の少年使節がローマで法王に謁見した時に、長崎のキリスト教徒はその存在をヨーロッパ世界に知らしめることになったのです。また、幕末に大浦天主堂で信徒発見がなされたことは世界のトップニュースでした。キリスト教殉教の歴史は遠藤周作の「沈黙」へとつながり、涙なくして語れるものではありません。この主役になったのは長崎の商人達です。長崎貿易の繁栄は日本の貨幣経済を根本から揺るがすこととなり、銀貨から金貨、銅貨など輸出品が変遷していきます。やがて、貿易量を制限し、朱印状や糸

割符の利権など商人たちの駆け引き、争いとなり、いろんな出来事をおこすこととなります。長崎犯科帳にはそのような商人たちの葛藤や抜け荷、異人と丸山遊女の問題など長崎ならではの事件が書かれています。小藩の殿様より多くの富を手にした長崎商人達は、日本中から貴重な文物を集めたり、独特の長崎文化を作り上げていったのです。長崎奉行はいましたが、ほとんど長崎商人達が自治をおこなっていたのです。貿易量の多寡が町の経済を動かす様はまるで「株式会社長崎」であります。隠元禅師等が持ち込んだ黄檗宗や書や絵画、唐絵目利き達の絵画、中国伝来の手法を使った若芝の鏝、銀細工、螺鈿細工、鼈甲細工、長崎版画、長崎刺繍など多くの手業が長崎にはありました。ベトナムに長崎人街を作るほどグローバルな長崎冒険商人の気質が、明治期の梅屋庄吉のような人物を輩出する町へなっていくのです。長崎検定を受験しようという動機は、そんな長崎をもっと知り

たいという気持ちになったからです。長崎の文化はお墓に土神がまつてあったり、墓石に名前を金文字で刻んであったり、長崎くんちや八夕揚げ、ペーロン、卓袱料理、南蛮菓子など私達の暮らしの中に今も残っています。しかしながら、十一月申し込みで翌年一月の受験は商売の繁忙期と重なり辛いものがありました。小雪の降る日に頭から湯気をだしながら机に向かって試験を受けたことは爽快な経験でした。これからも多くの人が長崎検定を受験し、歴史の長崎を未来の長崎へと繋いでいくことを信じていたいものです。



#### 【プロフィール】

1950年長崎市生まれ  
㈱中嶋屋本店 代表取締役  
長崎北ロータリークラブ会員  
長崎商工会議所議員